

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥409番地1		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和6年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2171000488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2171000488-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームのほか小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所者生活介護など、各施設と連携を取りながら、入所者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の広い敷地内には、様々な実のなる樹木が植えてある。収穫は利用者と共に行い、干し柿作りや梅ジュース作り、プランターや畑での野菜作りなども楽しんでいる。庭の池では金魚を飼育し、利用者が餌やりの役割を担っている。天気の良い日には、ウッドデッキに備えられたベンチで外気浴を楽しんだり、カフェスペースでお茶を飲む事ができる。利用者の日常はブログでも配信している。行政から、男性職員採用に向けての講師依頼があり、職員が引き受けている。職員は就業規則や適切な労働環境に守られ、休暇取得や休憩時間も取得しやすい。法人内では外国人技能実習性も受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は目につく所にかかげ、ケアの基本と一緒に支援の実践につなげている。	理念は法人内で統一されており、事業所の玄関に掲げ、職員は日々、確認している。また、会議や申し送りなどで、理念を振り返り、実践につなげている。新人教育や新しい利用者にも理念を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のつながりは事業所の行事として行っているが、近年はコロナ感染の関係で控えている。	コロナ禍で自粛していた地域の祭りなどの行事が再開し、地域交流が徐々にできるようになった。苑庭、通路は、近隣住民にも開放している。ベンチの備えもあり、住民との交流の場所にもなっている。職員は通路の落ち葉掃きや草取りをし、安全に過ごせるよう配慮している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議でのご意見は、すぐにスタッフ全員で共有し支援につなげている。	運営推進会議は書面にて開催している。今回、事業所報告書を送付する際に、意見欄を設けたアンケートも同封している。次回から、事業所内で対面での開催を予定している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員と面談(現在はリモート)をしてケアサービスに取り組む、協力関係を築くようにしている。	市担当者にはコロナ禍での事業所の取り組みを報告し、指導、助言を得ている。市から講師依頼があった際には、職員を派遣している。市の担当者の異動があった時には、新しい担当者の事業所見学、現状確認等を受け入れ、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当苑では身体拘束をしないケアを基本としているが、やむを得ない時はご家族との話し合いで対応する事としている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。職員会議では、心身状況の確認及び止むを得ない状況を明確にしている。夜間のみ、つなぎ服を使用する時は本人・家族の同意を得た上で対応するが、利用者の状態を見ながら、通常の寝衣に戻せるよう努力している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様のケアはスタッフ全員で確認しながら虐待のないケアを行っている。	虐待防止検討委員会を定期的に開催し、言葉遣いも含めて、不適切ケアの事例を挙げながら、全職員で話し合っている。管理者は職員とコミュニケーションを図りながら、心身の状態を把握し、虐待につながることをのさないよう、取り組んでいる。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の理解はしているが、現在該当する利用者様は入所されていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明とご理解は、入所時にケアマネより説明してご家族の理解を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は、日常生活の支援の中で読み取り、ご家族の意見、要望は来苑された時、又は電話での聞き取りから運営に反映している。	利用者の写真を掲載した便りと共に、担当職員が自筆で利用者の近況報告を書いたメッセージ、「食事便り(献立表)」なども同封している。面会時や電話連絡の際に家族の意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議では職員の意見を出し合い、代表者、管理者にあげてより良い運営が実施されるようにしている。	管理者も職員と一緒に現場のケアに就き、その都度、職員の意見や要望を聞いている。毎月の会議でも、職員が自由に意見を出しやすい雰囲気作りがされている。勤務時間やシフト調整、ケア方法について話し合いながら、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の向上心を計るよう資格取得の支援をしたり、個人が働きやすい時間など働く者への環境の配慮をしている。	法人は、人材育成、雇用管理等を適切に整備しており、「ユースエール認定企業」として登録されている。ワーク・ライフ・バランスにも配慮し、家庭の事情、急な休みにも臨機応変に対応できるよう、人員配置を行うなど、働き易い職場環境づくりに取り組んでいる。職員の定着率も良い。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の向上心を高めることへの支援として、研修を受ける為の勤務、時間を調整してシフトを作成し支援している。	職員が、オンライン研修を就業時間内に参加できるよう、シフトを調整するなど、積極的に支援している。外国人の職員も含めて、資格取得を奨励し、モチベーションを高めている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在はコロナの関係でリモートで可能な活動以外は行われていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様の本人の意志を察しながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の表情や、ふと出る言葉からご本人の希望や意見を把握して支援している。	利用者の入居時に把握した、アセスメント情報を職員間で共有している。また、個別ケアの中で新たな発見もある。利用者の表情や行動から、思いや希望を推測し、申し送りノートで共有しながら、利用者の意向に沿う支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議や申し送りで利用者様の日常を話し合い、その時期に合った支援を行うように支援計画を常に見直しをしている。	家族の訪問時に希望や意向を聞いている。日々の申し送り内容、個別支援記録、医師の意見などを参考にしながら、ケアマネジャーが介護計画を作成している。利用者の体調変化時には、その都度、家族と話し合い見直しをしている。	コロナが収束した際には、家族が介護計画作成会議に参加出来るよう、日程調整を行うなど、利用者の日常の様子やホームをより理解してもらう機会としての取り組みに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日常を細かく個別生活管理シートに記録して全職員共有し、支援の見直しや維持に活かしている。	介護計画を常に意識したケアの実践に努め、個別生活管理シートは時間帯ごと記録し、見やすい場所に置いて、職員間で共有している。業務日誌には、特に注意することを記入し、申し送りの際にも伝えている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の暮らしの変化にも対応しながら、サービスの多機能化に取り組んでいる。	通院は家族同行を基本としているが、緊急時や家族の事情によっては、職員が対応することもある。理美容室への同行、個別の買い物などは、利用者や家族の要望があれば代行している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様本人が今ある力を十分に発揮できるように安全を計りながら支援を行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族の希望にそって支援をしている。	入居時に、以前からのかかりつけ医を継続できることを説明している。定期的な法人医師の診察や看護師による健康管理、必要時には、適切に支援を行っている。歯科医師の訪問診療も受け入れるなど、医療の支援体制を充実させている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院、退院については病院側と情報交換を行いながら、ご本人が安心、安全な医療が受けられるように備えて支援している。	入退院時は、管理者が窓口となり、病院と情報交換を行なっている。利用者の状態をその都度家族に報告し、利用者が安心して治療が受けられる体制を整えている。退院時には、病院関係者からの経過情報を職員に説明し、受け入れを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援の在り方については、早いうちにご家族と話し合いながら、スタッフが丸となって見守り、支援をしている。	重度化や終末期の対応については、契約時に本人・家族に事業所の指針を説明し同意を得ている。終末期の支援は、医師の意見を聞きながら家族と話し合っている。看取り希望の場合は、再度細やかな相談を重ね、看取り体制を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生に備えて、スタッフ全員が初期対応の実践力を身につけている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練を行って、利用者様の避難方法を訓練で行っている。	防災訓練は年2回実施し、保存食の点検等も行っている。水害、地震についても話し合い、本年度は自治会長とも相談して訓練の日程を決め、訓練後の報告は運営推進会議でも行っている。消防署の防災会議にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーが守られているかを職員全員が確認し、状況を共有して対応し支援している。	職員の年間研修計画として、傾聴、プライバシー保護は重点課題としている。管理者も不適切ケアの研修に参加し、全職員に伝達している。地元在住の職員が多く、利用者と一緒に仲であっても、日々の支援で誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の望みや希望を日常の行動、言動から理解して物事を自己決定できるように支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を確認して一人ひとりに合ったケア支援を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の言動から食事への楽しみが伝わってくるので、一緒に読み合わせながら食事への楽しみを伝えている。	食材購入は地産地消を心がけ、管理栄養士指導の下、調理専属の職員が三食とも手作りし、提供している。誕生会は手作りケーキを準備している。家族には、献立表の一部、行事食やおやつ等を写真付きで報告している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に配慮した食事、水分補給など栄養士と共に考えながら個々に合った食事を支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの苦手な利用者様には、ケア方法を変えたりして口腔内の良い保持に努めている。	定期的に、口腔ケアの必要性を利用者に説明している。自分で磨く人、職員が介助する人など、食後の歯磨きを利用者全員が行っている。歯科医の往診希望にも対応している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの排泄を中心に支援しているが、個々の体調に合わせて本人が気兼ねのないように支援している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて、日にちや時間、入浴方法を考えて、個々のその日の合った入浴支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の居室では一人の時間を望まれる時や、他との空間の中で休息したり、一人ひとりの時間が持てるように支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は看護師のアドバイスを受けて症状の悪化など確認しつつ支援している。	看護師から、薬の目的、副作用について説明を受けている。薬の変更があった場合は、看護師が管理者に説明し、管理者が全職員に伝えている。服薬時は配布、取り出しから飲み込みまで、職員2名で確認し、誤薬がない管理体制で支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや喜びを考えて楽しみや気分転換をしていただけるように支援している。	利用者が出来ること、やりたい事を支援している。金魚の餌やり、片付けや掃除など、役割りを持って行えるよう支援し、自信と生きがいにつなげている。編み物や習字など、得意分野を活かした作品作りでも、喜びや楽しみを継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出についてはまだまだコロナ禍であって十分にできていないが、早く希望に合った外出ができるように願っている。	コロナ禍以前は、利用者と一緒に郵便局や図書館、買い物などに行っていた。現在は、感染対策をした上で、広い庭に出て散歩や外気浴、庭の金魚の餌やり、育った果実を見るのも利用者の楽しみとなっている。収束後には、様々な外出支援が出来る事を楽しみにしている。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様全員に個別に管理していただくことは難しいため、事務所にて管理し希望があったときに自由に使えるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	操作ができる利用者様は携帯電話をもっておられ、自由に家族、友人との交流をされている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保っている。壁飾りなど利用者様と共に作った作品など飾ってよい空間づくりをしている。	共用の空間の広い窓から、外の景色や季節を感じるができる。廊下も広い。寝たきりの利用者も、ベッドのまま移動ができ、食堂で他の利用者と一緒に食事を楽しむことができる。整理整頓がされ清潔である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士を近くの席にしたり、本人の気分を観ながら一人になりたい時は、居室でゆっくりの時間を過ごして頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に使えるように支援している。また、居室にはなじみの品物や写真など飾って本人が居心地よく過ごせるように支援している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのその時のできる力を活かして工作、写字、はり絵など現在のできる力を活かした支援を行っている。		